

2021 年 2 月 17 日

2020 年度「多摩地域市民活動公募助成」助成事業実施報告書

団体名: 一般社団法人市民の学習・活動・交流センター シビル

代表者・役職名 氏名: 加藤克子(代表理事)

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

シビル市民講座 映画監督・早川由美子のワークショップ あなたもできる! ~3 分間映像講座~

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1976 年 立川駅南口に須田学習塾を設立し運営するかたわら、地域における教育・文化活動に力を注ぎたいと考えようになりました。2002 年 須田塾の施設を使い、カルチャーステーション・アクティブ立川を開設。2003 年 ビルを買取り、任意団体シビルを設立。2009 年「一般社団法人 市民の学習・活動・交流センター シビル」を登録・発足。会員数 団体・個人 約 115 名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

<背景・目的>今やビデオカメラやデジカメは、誰でも手軽に使える道具です。インターネットで動画を観ることも、特別なことではありません。自分で撮影したものを編集したり、ネットで公開したりできれば、どれほど楽しいでしょう。それにはまだハードルがあります。撮影や映像編集経験の無い全くの初心者が、自分で撮影・編集し、作品として上映・公開できるまで、その技術を習得すること、それにより地域に根差した発信者の育成を目指します。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

①カメラ、三脚など機材の使い方。②撮影の基本(実習) ③企画の立て方 ④編集ソフトの使い方(実習)
⑤YouTube など動画の公開方法と注意点(実習) ⑥課題作品の撮影・編集 ⑦課題作品の完成披露上映・講評

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの「効果」 300文字程度まで

①全 8 回の教室での講義と実習ならびに、「大人の遠足」と名づけた課外実習(立教大学共生社会研究センター)を実施しました。コロナ災害状況下であったが、毎回、10 名ほど(延べ約 90 名)の参加を得て、内容の濃さと合わせ、大変好評でした。
②初めて映像制作に取り組む方が殆どでしたが、全員がそれぞれ個性のある小品を完成させることができました。
③修了者は、自分ひとりで、ビデオカメラやデジカメでの撮影・編集が、できるようになったので、今後、様々なもの(こと)を対象に、自らが発信者として、地域や生活に根差した、独自の映像作品が生まれるものと確信しています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回はコロナ災害下で、会場の準備など、様々な制約があったが、無事終了できました。それにより多くの経験を得ることもできました。こうした状況にも拘らず、熱心な受講生が参集し、本講座への需要の強さを、改めて感じさせられました。普段はマスメディアからの情報の受け手でしかない人々が、映像制作の技術を身に付け、自らが発信者となり、お互いに情報交換し、知見を広げることができる道を拓くことができました。参加者それぞれの人生が充実するとともに、この社会をより豊かにしていくに違いありません。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・一特になし



講座風景



取材インタビュー

2020年度
シビル市民講座

映画監督・早川由美子のワークショップ



あなたもできる！ ～3分間映像講座～

撮影&編集の基礎から、
インターネットでの動画公開までをマスター！

デジカメ、スマホの普及により、動画の撮影はかつてないほど手軽になりました。しかし、ただ撮るだけでデータが増えるだけ...という方も多いのではないのでしょうか？

この講座では、講師にドキュメンタリー映画監督の早川由美子さんを迎え、撮影・編集の基礎、コツを学びます。撮影や編集の経験が全くない人でも、基礎から学びますので心配ありません。講座終了時まで3分間程度の映像を完成させ、インターネットで公開することを目指します。

現代では、誰でも映像が作れ、ネットですぐに公開ができる時代です。だからこそ、この講座では、気をつけるべき著作権や肖像権、制作時のトラブル等についても学び、考えます。

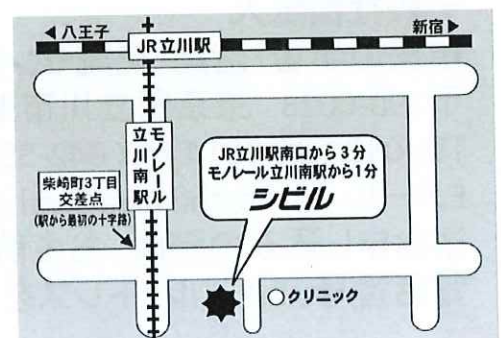
「ただ撮るだけ」で終わっていた映像で、ワンランク上の表現を目指してみませんか？

■講座スケジュール

第1回 9月30日(水) 撮影の基礎(1)	オリエンテーション カメラ・三脚の使い方、様々な撮影方法
第2回 10月7日(水) 撮影の基礎(2)	多様な映像表現を観る&知る 撮影時の注意点、トラブルの回避について考える
第3回 10月14日(水) 撮影の基礎(3)	企画の立て方、構成の考え方 取材やインタビューについて
第4回 10月21日(水) 編集の基礎(1)	編集ソフトの使い方(前編) スライドショーの作成
第5回 10月28日(水) 編集の基礎(2)	編集ソフトの使い方(後編) 著作権などの注意、ショートムービーの作成
第6回 11月4日(水) 編集作業(1)	課題作品の完成に向けた編集作業
第7回 11月11日(水) 編集作業(2)	課題作品の完成に向けた編集作業(仕上げ) 上映の様々な形態、ネットでの公開方法
第8回 11月25日(水) 完成披露上映会・交流会	課題作品の完成披露上映会・講評、交流会

* 各回とも18:30～21:30、全8回。

会場:シビル3階(車いすの方用リフト&トイレ有)
定員:15名(定員に達し次第〆切)
受講料(全8回):一般15,000円、シビル会員12,000円
(お申込み先など詳細は裏面をご覧ください)



お申し込み受付中！

■講師プロフィール

早川 由美子さん(はやかわ ゆみこ/ドキュメンタリー映画監督)

1975年東京都出身。成蹊大学法学部、London School of Journalism卒業。大学卒業後、公務員、会社員として働いた後、ジャーナリストを志し渡英。ロンドンでジャーナリズムを学ぶかたわら、独学で映像制作を開始する。

イギリス国会議事堂前の平和活動家、ブライアン・ホウを追った初監督作『ブライアンと仲間たち パーラメント・スクエアSW1』で、2009年日本ジャーナリスト会議・黒田清JCJ新人賞を受賞。『さようならUR』は、2011年山形国際ドキュメンタリー映画祭・スカパー！IDEHA賞を受賞した。

その他の作品に『乙女ハウス』、『木田さんと原発、そして日本』、『踊る善福寺』など。最新作は、インドで出会った女性たちを記録した、『インド日記～ガジュマルの木の女たち～』。公式ホームページ: www.petiteadventurefilms.com

■受講される皆さんへ

- ・本講座は、全8回通しで受講していただく講座です。
(撮影の回のみ、編集の回のみ、といった受講はできません)。
- ・デジカメ、ビデオカメラ、ノートパソコンなどの機材を持っていない方でも、心配なく受講できます。
- ・ご自分のデジカメ、ビデオカメラ、ノートパソコン(Windows 10限定)を持ち込み、受講していただくことも可能です。
- ・講座では、Windows 10搭載の「フォト」アプリ(無料)を使って、動画の編集をします。
- ・課題作品制作のための撮影は、授業外の時間(数時間)を使って行っていただきます。
- ・年会費3,000円で、シビルの会員になれます。会員になると、他のシビル講座を割引で受講でき、シビルの施設も会員価格で利用できます。

■新型コロナウイルス感染予防のために

- ・定員に対し、十分余裕を持った広さの教室で行います(窓、換気もあり)。
- ・授業前後は、各自手洗い・うがいなどを行ってください。
- ・体調が悪い場合は、無理をして参加しないようにお願いします。毎回の授業は録画をしますので、欠席した回の授業内容は録画で学ぶことができます。
- ・その他、ご不明・ご心配な点はシビルまでお問い合わせください。

■お問い合わせ・お申し込み

一般社団法人

市民の学習・活動・交流センター シビル

〒190-0023 東京都立川市柴崎町3-10-4

TEL 042-524-9014 FAX 042-595-9431

Eメール civiltachikawa@yahoo.co.jp

※お申し込みの際は、お名前、ご住所、電話番号、Eメールアドレスをお願いします。



映画監督・早川由美子のワークショップ

あなたにもできる！ 3 分間映像講座

——撮影&編集の基礎からインターネットで動画公開まで——

期間:2020 年 9 月 30 日(水)~2020 年 11 月 25 日(水)

時間:18:30~21:30

日 付	内 容	参加者数
9 月 30 日	オリエンテーション カメラ・三脚の使い方、様々の撮影方法	12 名
10 月 7 日	多様な映像表現を観る & 知る 撮影時の注意点、トラブル回避について	11 名
10 月 14 日	企画の立て方、構成の考え方 取材やインタビューについて	11 名
10 月 21 日	編集ソフトの使い方 (前編) スライドショーの作成	9 名
10 月 28 日	編集ソフトの使い方 (後編) 著作権などの注意、ショートムービー作成	11 名
11 月 4 日	課題作品の完成に向けた編集作業	10 名
11 月 11 日	課題作品の完成に向けた編集作業 (仕上げ) 上映の様々な形態、ネットでの公開方法	10 名
11 月 25 日	課題作品の完成披露上映会・講評、交流会	9 名



第1回講座
シビル3階にて

第1回 2020年9月30日(水)

会場：シビル3階 参加者：12名

コロナ災害状況で延期になっていたが、ようやく開講。少し心配したが、開始直前にほぼ全員そろった。レジュメに従い、講座全体の説明がなされる。受講生は全員マスクを着用したままで、講師はマスクを外し、透明アクリル板越しに話す。滑舌良く、遠くまで通る声で、丁寧に説明が進む。

その後、講師の自己紹介。映画監督になるまでの経緯。会社員時代に公園のベンチの異変に着目し、そこから多くの野宿者取材、それを基に記事を書き、マスメディアに持ち込んだが、掲載されず、ネットニュース媒体に掲載されたが「炎上」。そのことで報道番組が注目。TV局の取材を受ける中で、映像の力を実感。やがて自ら撮影、YouTube に上げることで、技術を磨いていったという。その後、英国に留学、当地のメディアの現実なども知り、自らが記録・報道する者として、出会った反戦活動家集団取材し、最初のドキュメンタリー作品を作ったことなどが話された。

この後、講師監督作品の予告編を観た。デビュー作の『ブライアンとその仲間たち』や、『インド日記』などだが、いずれも迫力ある素晴らしい作品だと実感できる。彼女の作品の特徴は、あくまでも身近な日常生活の延長から出発し、取材対象の人々と等身大で接していることで、決して観念的にならないことだろう。『さよなら UR』のショットで、玄関先の古い簾と使いこんだ下駄のクローズアップや、作品名は不明だが、お姉さんのごみ袋を撮ったものなどに、よく表れている。

講師の次は、受講者の自己紹介タイム。大学時代は映研で活動していた方、ヘルパーやセラピーの仕事をしている方、労組や大学の職員、孫の写真を撮りたい退職者、動物園のボランティアガイド、など多彩な人々が集っているようだ。参加者の年齢も様々で、女性がやや多い。

小休止の後、いよいよ本論に入る。撮影の基礎として、各種カメラの説明、ドローンの注意、撮影の基本についての説明。これもよくある専門用語を用いず、「カメラを水平に動かす」、「見上げる」など、普通の言葉で、とても分かりやすい。その後、二人一組で簡単な撮影の実習があり、講評の後、3時間にわたる第1回目の講座を終えた。

第2回 2020年10月7日(水)

会場：シビル3階 参加者：11名

課題作品の取材先(かけこみ亭、Jikka、シビル)と、立教大学共生社会センター訪問のグループ分けについて確認後、今、「表現の自由」についてどう考えるかについて発問された。何らかの表現活動をする場合、この問題は避けられない。私も指名され、前年の愛知トリエンナーレでの「表現の不自由展」を巡る問題と、性暴力被害者に対する杉田水脈議員の「女性はいくらでも嘘をつける」発言について、少し問題提起した。▼講師からは、世田谷区でのPCR検査を受け、その体験をブログで発表したことで生じた区役所職員とのやりとり、それに対する不特定の人々による「炎上」など、顛末が語られた。ひとつの表現が巻き起こす様々な反応を通し、社会の現実も見えるということ。また、フリージャーナリストは、多くの記者会見からも締め出されていることなども、自身の体験を交えて話された。▼その後、「様々な映像表現を知る」例として、ありのままの日常を撮った『You かいご』(西村仁美)や、独居男性が冷やし中華を作って、ごちそうする過程を記録した『さよなら UR』のシーンでは、取材対象との距離感が限りなく小さいことを実感した。こうした映像は、小さなカメラを持った個人ジャーナリストだから撮影できること、あるいは当事者だからこそ発信できるということ、それらが強みなのだと語られた。▼その他、「障害者」の定型的イメージを解体するステラ・ヤングさんの講演(『TED』)の映像や、イランの映像などを観た。決して二項対立ではなく、見る者に問いを投げかけ、判断をゆだねるということの大切さと、その点にこそ映像の力が発揮できるのだ、ということ。また、表現とは何かという問題にも関わるが、『さよなら UR』の中の、立退きを迫られている独居老人とのやりとりを記録した映像を見て、カメラの暴力性について、考察した。

第3回 2020年10月14日(水)

会場：柴中会公会堂 参加者：11名

まず「人生100年時代」という言葉で浮かぶイメージを皆で出し、その様々なイメージを分類。それを取材する場合どうするか、というブレインストーミング。▼その後、インタビューに「差別語」が使われている場合、どう処理するか、滑舌や録音が悪い場合、字幕スーパーを全てに入れるのか、入れないのか、等々の

問題を提起された。インタビュー取材に際しては、いきなり質問するのではなく、軽い世間話から入るなど、工夫が大切なことや、カメラの存在をできる限り小さくすること、あくまでも相手がメインなので、自分ばかりしゃべらないこと、相手の意見をジャッジしないこと、反論や否定をせず質問すること、聞き方を変え、意見を聞き出すこと等々、実践的な説明がなされた。▼後半は、取材先別のグループに分かれ、「企画書」の作成実習。受講生同士が初めて顔を合わせ、意見を出しあい、グループ毎に発表した。自らが選択した取材先で、何を聴き、どう撮影するのか、具体的に考える練習となった。



第4回 2020年10月21日（水）

会場：柴中会公会堂 参加者：9名



最初に今回の講座で初めて取材・撮影を終えたIさんからの報告を聴いた。Iさんはシビルを取材。全く初めての経験だったが、とても充実した時間のようだった。▼その後、スライドショーの作成実習。Windows10に標準装備の無料編集ソフト「フォト」の使い方を、入っ

る場所の確認から、作業フォルダの作成、写真データの選択、編集画面の構成、プロジェクトライブラリへの素材（写真・音楽）の追加と保存、ストリートボードの使い方、編集の完了まで、映像を使い丁寧に説明された。▼休憩後、参加者それぞれスライドショーを作成したが、これがとても楽しい作業だった。全員の作品を順に上映し、講評の後、終了した。

第5回 2020年10月28日（水）

会場：柴中会公会堂 参加者：11名

「かけこみ亭」取材班からの報告後、編集の大前提となる注意点、編集作業の最

初から完成まで順を追った説明を聴く。▼休憩後、編集が単なる「技術」ではないことを、『童貞。をプロデュース』制作過程での性暴力について、出演者（＝被害者）が暴露・告発している問題や、原発労働者が泣く姿を、よくあるクロースアップではなく、傍の人に焦点を合わせて、間接的に撮った秀逸な事例を通して説明。著作権についても、志田陽子著『あたらしい表現活動と法』の一部を資料として配付し、説明された。

第6回 2020年11月4日（水）

会場：柴中会公会堂 参加者：10名

最初に Jikka を取材した班からの報告を聴いた後、動画をネット公開する方法と注意点などについて説明を受けた。その後、各自が取材・撮影した素材データを、自分で編集する時間となった。この孤独な作業中にも、質問のある者は、いつでも質問に応じてもらっていた。

第7回 2020年11月11日（水）

会場：柴中会公会堂 参加者：10名

立教大学共生社会研究センターでのワークショップ参加者の報告後、動画編集ソフトの案内、ネット掲示板の活用方法、作品の上映・公開の方法について説明。その後、各自、作品編集の続きの作業に入った。次回はよいよ完成上映会。果たして間に合うのだろうか。

第8回 2020年11月25日（水）

会場：柴中会公会堂 参加者：9名

何とか無事に、全員が作品を完成、上映にこぎつけた！本当に素晴らしいことだ。上映会には、Jikka、かけこみ亭、シビルからも来訪され、感想を戴く。終了後、打ち上げを行った。短い時間だったが、お互いに初めての方と話すことも多く、楽しく、有意義な交流会だった。

受講者アンケート

★仕事の一番つらい時期とちょうど重なっていたので、この講座のおかげで救われました。本当にマジで救われました。(Sさん)

★早川さんの話し方、教え方がとても丁寧で、とても良かった。(Aさん)

★講義の内容がとても実践的で、役に立つ、濃い情報が盛り込まれていて、とても満足です。(Hさん)

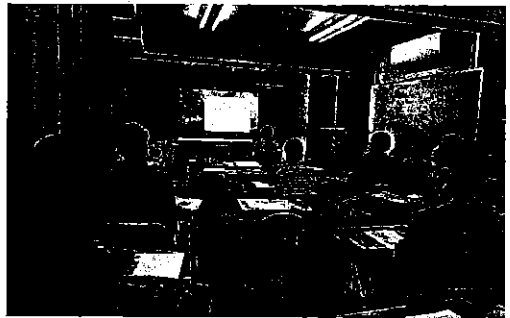
★基本的な技術と、映画に対するスタンスが学べて良かった。(Cさん)

★時間的に毎回ハード(実施地が自宅から遠い)でした。聞き取りやすいスピードでいつも話し下さったので、とても安心できました。(Bさん)

★内容はステキでしたが、私はPC操作で手間取り、待ちになり、作業時間が短かったので、やや不満でした。(Iさん)

★実例が豊富で、楽しく受講できた。途中で個人面談があり、相談できて良かったです。3時間は初め長いと思ったが、集中的に学べた。(Mさん)

★毎回、レジュメの説明に沿って各種参考資料(映像)を挙げて下さり、とても勉強になった。説明もとても明快で良かった。(Kさん)



<編集後記> 記憶とは不思議なものだ。表現されぬまま、私の記憶の中では、講座の日々が今もリアルな映像として甦る。記憶とメモを頼りに、記事を書いた。いつか再会する日があれば幸い。お元気で!

(2021年2月20日 小泉雅英)

一般社団法人(非営利型)市民の学習・活動・交流センター シビル

〒190-0023 東京都立川市柴崎町3-10-4

TEL: 042-524-9014

FAX: 042-595-9431

Email⇒civiltachikawa@yahoo.co.jp